

市税は給料、交付税は仕送り… 財政を家計に例えよう

これまで5回にわたって彦根市の厳しい財政状況と今後の改革に向けての基本的な考え方を伝えてきました。しかし、財政に関する記事は、出てくる数字の桁が大きくて、彦根市の借金は多いのか、本当に財政が苦しいのかわかなかなか実感できないのではないのでしょうか。

では、市の財政を、年収500万円の家庭に例えると、市の収入は、借金は、どれほどになるのでしょうか。家計が彦根市と同じ状況になっている4人家族の会話を聞いてみましょう。

また、平成14年度の市の財政規模を500万円に圧縮した表も掲載しますので参考にしてください。

登場人物

- 太郎…45歳の会社員
- 花子…45歳のパート社員
- 花恵…大学1年生で一人暮らしの娘
- 一郎…中学2年生の息子

最近、お父さんの給料(市税など)も少なくなってきたわねえ。私たち2人の給料を合わせても、月約20万だなんて…。そうなんだ。なかなか景気が良くならなくて。お父さんの会社の経営状態もよくないんだ。うちも、実家の両親の援助(地方交付税など)が無かったらやっていけないね。

えーっ！お父さんの会社つぶれちゃうの？久しぶりに帰ってきたのにびつくりさせないでよ！

一比べて分かる財政状況

下の表は、右の半分は平成14年度の市の財政状況、左の半分はそれを500万円の規模に縮めたものです。分かりやすいよう、一般の家庭の家計でなじみのある言葉に置き換えてみました。

太郎さん家族の家計の状況			彦根市の歳入と歳出の決算額(平成14年度普通会計)		
	年 額	月 額	年 額	構成比(%)	
収入の合計	5,000,000円	417,000円	収入の合計 371億 800万円	100.0	収入の合計
家族で得た収入	2,423,000円	202,000円	市税、負担金、手数料など 179億8,200万円	48.5	市税、負担金、手数料など
親などからの援助	1,714,000円	143,000円	地方交付税、国・県支出金など 127億1,800万円	34.3	地方交付税、国・県支出金など
定期預金の解約	150,000円	13,000円	繰入金 11億1,100万円	3.0	繰入金
借り入れ	602,000円	50,000円	市債 44億7,000万円	12.0	市債
繰越金	111,000円	9,000円	繰越金 8億2,700万円	2.2	繰越金
支出の合計	4,881,000円	407,000円	支出の合計 362億2,400万円	100.0	支出の合計
食費	1,019,000円	85,000円	人件費 75億6,300万円	20.9	人件費
医療費、学費など	545,000円	46,000円	扶助費 40億4,700万円	11.2	扶助費
ローンの返済	567,000円	47,000円	公債費 42億 900万円	11.6	公債費
光熱水費、庭木の剪定など	678,000円	57,000円	物件費 50億3,500万円	13.9	物件費
家電の修理、家の補修費	27,000円	2,000円	維持補修費 1億9,800万円	0.5	維持補修費
家族の小遣い、保険料など	297,000円	25,000円	補助費等 22億 100万円	6.1	補助費等
貯金	27,000円	2,000円	積立金 1億9,700万円	0.5	積立金
株式投資	94,000円	8,000円	投資・出資・貸付金 6億9,800万円	1.9	投資・出資・貸付金
子どもへの仕送り	506,000円	42,000円	繰出金 37億5,400万円	10.4	繰出金
車の購入など	1,121,000円	93,000円	投資的経費 83億2,200万円	23.0	投資的経費
収入と支出の差し引き	119,000円	10,000円	収入と支出の差し引き 8億8,400万円		収入と支出の差し引き
預金残高	357,000円		基金残高(財政調整基金+減債基金) 26億5,300万円		基金残高(財政調整基金+減債基金)
借入残高	5,810,000円		市債残高 431億2,200万円		市債残高

いや、今のところそこまで悪いわけじゃないけど、すぐに改革しないと危ないな。景気が良かった時に、あれもこれもと消費者要望に合わせて事業を広げすぎたんだよ。だから、これからは質の高いサービスを選んで事業を進めることになったよ。

おじいちゃんとおばあちゃん(国・県)も、少ない収入の中で、工面して私たちを助けてくださっているようだし、もう無理は言えないわ。

そうだなあ。なんとか自分たちでやっていく方法を考えないと。あまりせいたくはしてないつもりなんだけど、ちよつと家計簿を見てみようか。

えーと、食費(人件費)が月8万5千円。これはもっと工夫して切り詰める必要があるわねえ。医療費や学費(扶助費)が月4万6千円。これは減らすのは難しいわ。学費はこれからもっと増えるわよ。

そうだねえ。それからローンの返済(公債費)が月4万7千円か。家のローンはまだまだ続き、車のローンだって増えちゃっ

たしなあ。これからは、ローンも思うようには組めないね。それから、光熱水費など(物件費)が月5万7千円。もっと節約しないと。庭木の剪定は、毎年同じ業者に頼んでいるけど、もっと安いところがないか探してみよう。

それから、家の修理など(維持補修費)に月2千円、一郎のおこづかいや保険料など(補助費など)を合わせて月2万5千円かかっているわよ。

僕のおこづかいも減らすの？

そうねえ。みんなのおこづかいも含めて、協力し合えるところはしましょうね。

このほかに、貯金(積立金)が月2千円に、株式投資(投資・出資・貸付金)が月8千円、花恵への仕送り(繰出金)が月4万2千円か。

私も、新しいアルバイト先を探して、協力するわ。ありがと。でも勉強が優先よ。学費は何とかするから、生活費くらいは自分で賄ってもらえると助かるわ。

そして、車の購入などに月当たり9万3千円支出しているなあ。この約半分はローンを組んでいるんだ。

でも、収支は黒字になっているよ。

それは見た目だけだよ。定期預金(基金)を年額で15万円もくずしているからねえ。だからうちの貯金は、もう35万7千円しか残ってないよ。逆に家や車なんかはローンで買っているから、借金は581万円もあるんだ。

私たちが出来るだけ協力しなくちゃね。

そうだね。みんなで、知恵を出し合ってがんばってこつ。

現在、彦根市では、収入に見合った支出に転換できるよう、行政の仕組みそのものについて、抜本的な見直しを進めています。そのなかでは、経費の削減や業務の効率化はもちろん、現在の制度や体制、投資的事業なども見直し、限られたお金で、できるだけ多くの成果が上がるよう努めています。しかし、少子高齢化への対策など、今後多くの行政需要に対応していく必要があり、市民の皆さんの協働が不可欠です。

この家計簿は、実際の家庭の家計簿とは異なるかもしれませんが、しかし、現在の本市の厳しい財政状況をより理解いただくために作成したものです。

経営改革についての「ご意見・ご提案をお寄せください」
 困 経営改革推進室
 FAX ②1398番
 Eメール: keikakaku@ma.city.hikone.shiga.jp